

DIAGNOSTIC TOOL

操作ガイド

HDM-10000

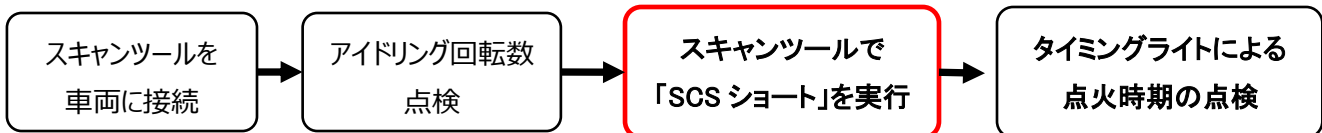
作業サポート「SCS ショート」によるホンダ車の点火時期点検

注意事項 / 必ずお読みください

- 本書は日立ダイアグノスティックツール HDM-10000 用ホンダ診断ソフトの診断機能の活用事例について紹介するものです。自動車メーカー発行の整備解説書を代替するものではありません。
- 実際の作業にあたっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で正式な作業手順、注意事項をご参照のうえ、作業を行ってください。
- 自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更されるため、本資料で紹介する機能が使用できない場合があります。

1.ホンダ車の点火時期点検の手順概略

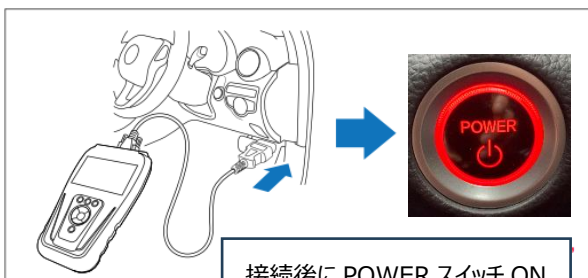
- ホンダ車では点火時期点検を行う際、事前にスキャンツールで作業サポート機能「SCS ショート」を実行します。※
※車両によって車両側診断コネクタの所定の端子を短絡させて「SCS ショート」を実行する場合があります。
- 「SCS ショート」を使用した点火時期点検の手順は以下となります。



2.HDM-10000 用ホンダ診断ソフトの「SCS ショート」による点火時期点検手順(ハイブリッド車での例)

【手順 001:HDM-10000 の車両への接続】

- ①HDM-10000 を車両側診断コネクタに接続してください。HDM-10000 が起動します。
- ②車両側 POWER スイッチを ON にし、HDM-10000 メニュー内の診断を選択してください。
※故障コードがコントロールユニットに記憶されていない状態で点火時期の点検を行ってください。



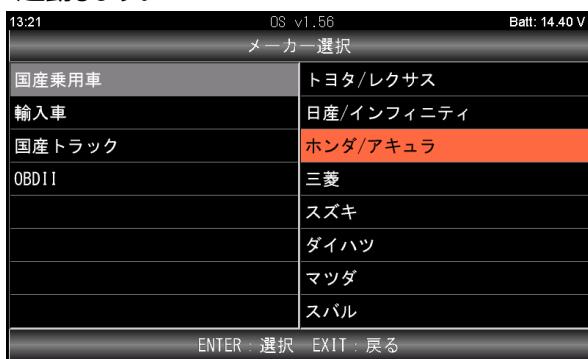
接続後に POWER スイッチ ON
(エンジンは始動しない)



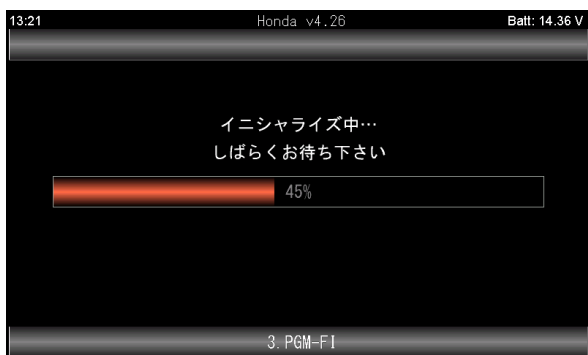
(次ページに続く)

【手順 002:メーカー選択からホンダメインメニューの表示まで】

①メーカー選択画面が表示されます。「ホンダ/アキュラ」を選択して ENTER キーを押してください。ホンダ診断ソフトが起動します。



②ホンダ診断ソフトが起動したあと「イニシャライズ中…しばらくお待ちください」の画面が表示され、各コントロールユニットとのイニシャライズが実行されます。イニシャライズが完了するとエンジンタイプ選択の画面が表示されますので、接続している車両に適合するエンジンタイプを選択して ENTER キーを押してください。



③車両情報の画面が表示されたら ENTER キー押してください。ホンダメインメニューが表示されます。



【手順 003:アイドル回転数の点検-メンテナンスモードの起動と暖気運転/ハイブリッド車の場合のみ】

- 3 ページの【手順 004】の点検に入る前に下記手順でメンテナンスモードの起動を行います。
 - 通常のエンジン車の暖機運転では【手順 003】の①～⑥は不要です。通常のエンジン始動のあと⑦を行ってください。
- ① POWER スイッチを OFF モードにします。60 秒以内に②以下の操作を行ってください。
 - ② ブレーキペダルを踏まずに POWER スイッチを ON モードにしてください。
 - ③ P ポジションで、アクセルペダルを 2 回全開まで踏んだ後、足を離してください。
 - ④ ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを N ポジションにし、アクセルペダルを 2 回全開まで踏み、足を離してください。
 - ⑤ ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P ポジションにし、アクセルペダルを 2 回全開まで踏み、足を離してください。
 - ⑥ ブレーキペダルを踏み、POWER スイッチを押すと、メンテナンスモードの起動とともにエンジンが始動します。
 - ⑦ 無負荷 3,000rpm までを目安にクーリングファンが作動するまで暖機運転を行ってください。

【メンテナンスモードの補足事項】

- マルチインフォメーションディスプレイに“Maintenance Mode”が表示されます。
- エンジン冷却水の温度が高い場合、水温が下がるまでエンジンが一時的に始動しない場合があります。
- POWER スイッチを OFF モードにすると、エンジンが停止しメンテナンスモードがキャンセルされます。
- メンテナンスモード起動中、一部のシステムについては制御を停止し、各システムのインジケータが点灯します。
- メンテナンスモードでエンジンを運転している時にトランスミッションからガラガラ音が発生する場合があります。
この音はジェネレーターモーターに負荷が掛かっていない時、ギヤーに設定されているクリアランスにより起こる雑音であり異常ではありません。

【手順 004:アイドリング回転数の点検-HDM-10000 による点検】

ステアリング ホイールを直進状態にし、ヘッドライト、プロアモーター、リヤデフロスター、クーリングファン、A/C などが作動しない無負荷状態で 1 分以上経過した後、以下のアイドリング回転数点検を行ってください。

- ① 診断を選択して ENTER キーを押してください。システム選択画面が表示されたら、個別システムを選択して ENTER キーを押してください。



- ② 個別システムが表示されたら PGM-FI を選択して ENTER キーを押してください。PGM-FI のメニュー画面が表示されますのでデータモニタを選択して ENTER キーを押してください。



- ③ 表示項目選択が表示された画面下部の開始を選択して ENTER キーを押してください。データモニタが開始されます。整備解説書を参照のうえ、データモニタの「エンジン回転」の値を確認してください。



【手順 005:「SCS ショート」の実行-点火時期の点検】

【手順 006】の点火時期の点検に入る前に以下①～④を実行します。

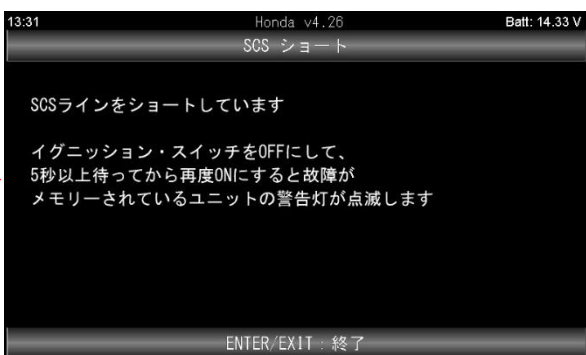
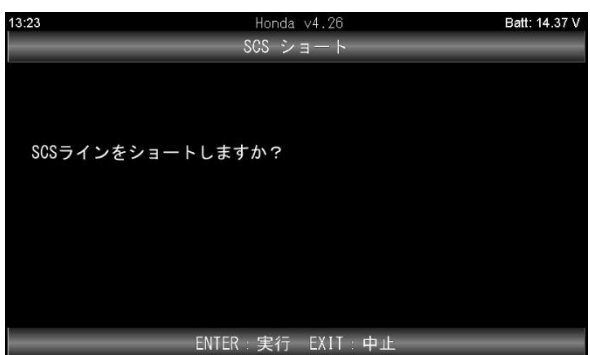
- ①HDM-10000 でデータモニタを実行している場合、ENTER キーを数回押してホンダメインメニューまで戻してください。
- ②ホンダメインメニューで作業サポートを選択して ENTER キーを押してください。作業サポートが表示されたら「ボディシステムを除く」を選択して ENTER キーを押してください。



- ③作業サポートのメニュー画面で SCS ショートを選択して ENTER キーを押してください。SCS ショートの説明画面が表示されたら ENTER キーを押してください。



- ④実行について確認の画面が表示されたら ENTER キーを押してください。SCS ショートが実行されます。画面の表示にしたがい車両を操作してください。※点火時期の点検が終わるまでは ENTER キー、EXIT キーを押さないでください。



【手順 006: 「SCS ショート」の実行-タイミングライトによる点火時期点検】

- ①3 ページの【手順 003】を参照してメンテナンスモードを起動してください。なお、SCS ショートを実行している時はマルチインフォメーションディスプレイに“Maintenance Mode”が表示されない場合があります。
- ②整備解説書を参照のうえ、タイミングライトによる点火時期の点検を行ってください。
- ③点火時期の点検が完了したら HDM-10000 の EXIT キーを押して SCS ショートを解除してください。